



# 田中千賀子学術奨励賞、研究助成表彰式（社団法人 神緑会事業報告）

## (Citation)

神戸大学医学部神緑会学術誌, 22:10-10

## (Issue Date)

2006-08

## (Resource Type)

departmental bulletin paper

## (Version)

Version of Record

## (JaLCDOI)

<https://doi.org/10.24546/81007910>

## (URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81007910>



# 田中千賀子学術奨励賞，研究助成表彰式

2006年6月24日

田中千賀子学術奨励賞は，第一回の立ち上げにふさわしく，斎藤あつ子先生が選出された。田中千賀子名誉教授のご臨席を仰ぎ，神緑会総会場で菱田理事長から副賞とともに授与され，盛大な拍手で祝福された。田中先生からも賞を立ち上げるに至った経過などの紹介と斎藤先生への期待，受賞者からの謝辞などもあり，和やかに成功裡に10回限定ながら継続を目指した船出となった。今回の受賞は，斎藤先生の長年の研究と教育への業績に対して行われたが，斎藤先生は昨年，武田製薬より記念事業として（通常は最高で200万円），5,500万円の大型研究助成を受けられた。自分からは，なかなか申し上げにくいことで，神戸大学学長室で授与の瞬間に同席した当時の研究科長・医学部長の前田より紹介があった。斎藤先生の一層の研究の進展を祈り，かつ，来年度の6月総会では斎藤先生の講演をお願いすることが，菱田理事長から紹介された。平成18年度入学生で，初めて女子学生が40.6%と40%を超えた記念すべき年でもある。男女を問わず，活躍を期待するがまだまだ女性の働きにくい環境は変わっていない。後に続く人材に大きく期待したい。

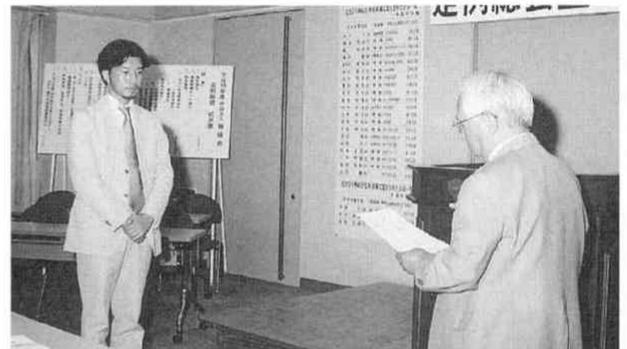


菱田繁理事長から賞状を受ける斎藤あつ子先生

神緑会の重要な事業の一つである研究助成事業は，初めての少なさであるがたった2名の助成となってしまった。2名の選ばれた方々はいずれも意欲的で助成にふさわしいものであった。従来から，神戸大学と関連病院がある意味で半々になるような取り組みがあつて，うまくバランスが取れていたが，昨年度の7名から一気に減少した。神戸大学学内では，科学研究費への応募の増加に取り組み，非常勤職員もかなり幅広く応募が可能となった。附属病院職員の応募が少ないなど批判のある中で，500万円を研究科長裁量経費から何とか工面して平成16年度から公募している。応募件数も多く，激戦であるが，今回の事象は理解に苦しむ。関係者の連絡体制など，一考が必要である。このショックを基に活発な研究志向が盛り上がることを期待する。（編集部）



菱田繁理事長から認定証を受ける吉田優先生



菱田繁理事長から認定証を受ける森田圭紀先生